



# 躍はんのう重か

第2号

<発行>

特定非営利活動法人  
飯能市体育協会広報委員会  
(飯能市民体育館内)

<発行日>

平成19年9月1日

## YAKUDO Hanno

### 新たな時代を迎えて

#### 模索する体育協会

飯能市体育協会の役員の間では、以前から法人化の必要性について話題になることが多かった。

まず第一の問題は財政基盤の弱いことである。自己財源の額で見ると埼玉県内体育協会(七十協会)平均で一七〇万円、市部体協(四十協会)のみの平均では二七〇万円、五市の財団法人体育協会を除いた三十五市体協平均で一二〇万円に対し飯能市体協の自己財源は一一〇万円弱で厳しいところである。更に、各自治体の財政状況も厳しさを増す一方で、今年六月二十七日に開催された郡市町村体育協会連絡会議西部地区会議(十二市町村体協)でも約半数の体協が補助金の削減等に直面し、自己財源の確保が急務であると報告している。何れの体育協会にとっても最大の悩みとなっている。

次に新たな要望にどう対応

私たちは何か特効薬を見つけていくかの問題である。一つは少子高齢化の時代でのスポーツの振興であり、もう一つは自治体の行政改革の推進による新しい動きへの対処である。前者はスポーツの枠を超えた健康づくりに発展し、児からお年寄りまで系統的な事業展開が求められてくる。後者は指定管理者制度の導入にみられる「民で出来ることは民で」の流れの中で、広い分野の人材を抱え実行力のある体育協会が市民の生涯スポーツ、体力づくりの場を確保し事業を提供していくことである。

飯能市体育協会としては、以上のような自主財源の改善を図り新しい動きに対応していくには法人化は避けてとおれないとの結論に達し、そして自分たちの体力・財力からみてNPO法人の取得となつたのである。

していくかの問題である。一

つは少子高齢化の時代でのス

ポーツの振興であり、もう一

つは自治体の行政改革の推進

による新しい動きへの対処で

ある。前者はスポーツの枠を

超えた健康づくりに発展し、

児からお年寄りまで系統的

な事業展開が求められてくる。

後者は指定管理者制度の導入

にみられる「民で出来ること

は民で」の流れの中で、広い

分野の人材を抱え実行力のあ

る体育協会が市民の生涯ス

ポーツ、体力づくりの場を確保

し事業を提供していくことで

ある。

飯能市体育協会としては、

以上のような自主財源の改善

を図り新しい動きに対応して

いくには法人化は避けてとお

れないとの結論に達し、そし

て自分たちの体力・財力から

みてNPO法人の取得となつ

たのである。

けた訳ではない。最初の一歩を打つだけである。今後どのような取り組みをしていくか、これからが正念場である。体育協会にとつてはまだまだ模索が続く……

(事務局)



NPO法人飯能市体育協会通常総会で挨拶する沢辺飯能市長

(会場は新しく完成した市役所別館大会議室)



NPO法人となっての最初の総会  
(熱心に協議を重ねる各種団体役員)



## 「至極の宝」

埼玉県議会議員

和田 浩

学んだこと。数えきれない思い出が、幾ら年を重ねても至極の宝として蘇つてまいります。

このたび飯能市体育協会が、NPO法人を取得されましたこと、大変意義深いことであり、心からお喜びを申し上げますと共に、関係各位の皆様のご尽力に心から敬意を表したいと存じます。

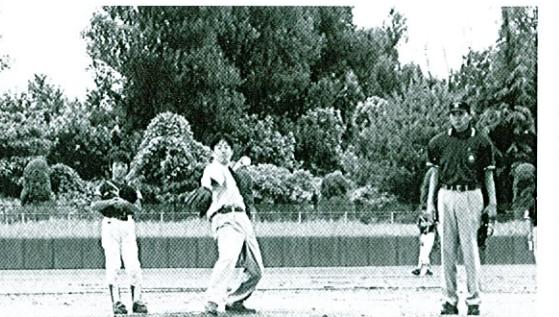
さて私はスポーツとは浅からぬ縁があります。小学低学年から中学・高校と一貫して野球野球の日々を送つておりました。その間、種々な試合の思い出が多数あります。不思議なことに、それよりも一層心に刻まれ思い出されることがあります。それは苦しかった練習の日々や友と励まし合い語り合つたこと、練習の後に腹ペコになつて家路についたこと、引退される先輩との別れのこと、やがて自らが後輩と別れ引退する日のこと、そして何より尊敬すべき指導者と出会い多くのことを



最も勝れた方策であると思いまます。私も議会人として、しっかりとサポートをさせて頂きたいと思います。

## スポーツ少年団交流事業

スポーツ少年団は『スポーツを通じて青少年のからだと心を育てる組織を地域社会の中に』と願い、昭和37年に(財)日本体育協会が創設した歴史あるスポーツクラブです。飯能市スポーツ少年団においては、次代の担い手である青少年の健全な育成を目標として昭和49年10月10日、10団422人で発足いたしました。



いた強豪「高萩市島名中央野球スポーツ少年団」です。両チーム白熱した試合を開、結果4対1で一小フレンドリーが見事勝利を收めました。第2試合は勢いのついた松岡野球スポーツ少年団を12対4で破り、「中山信吉公交流記念杯」を手にしました。



水浴の支度を始めていました。午前9時お世話になつた宿舎の皆さんに別れを告げて、戸小浜海岸へ向かいました。手のひらほどの力二を見つけたり、小魚や海藻などを手に取つたり、海無し県の飯能市の子ども達にとつて貴重な体験ができました。



その後、昨日の対戦チームが待つ高萩市海水浴場へ移り、海水浴場定番の『ビーチフラッグ』の競技で対戦を行いました。さすが浜っ子、海では敵なしとばかりファッスルした高萩市の団員が昨日の借りを返し優勝しました。

### 【本部事業】

#### スポーツ少年団年間行事

- 平成18年7月22・23日 小フレンドリーが高萩市との交流会に参加
- 22日は野球で 交流を深める
- 城県高萩市で平成18年7月22 飯能市の友好都市である茨

- 平成18年7月22・23日 友好都市との交流事業
- 22日は野球で 交流を深める

- 相手チームは予選を勝ち抜きました。
- 草間吉夫高萩市長始球式の後、午後1時に第1試合が始まりました。
- 飯能市との交流会に参加
- 高萩市との交流会に参加
- 22日は野球で 交流を深める
- 城県高萩市で平成18年7月22 飯能市の友好都市である茨

- 7月23日、団員達は前日の疲れもなく、午前7時には起
- 床し早々と朝食を済ませ、海
- 23日はビーチフラッグで 交流を深める

- 日・23日にスポーツ少年団の交流事業が行われました。
- 7月22日、霧雨が舞う中、飯能市役所を出発し、一路高萩市へ向かいました。バスの中の団員は聊か緊張気味か?
- 渋滞もなく高萩市へ無事到着。心配された天候も薄日が射すまでに回復し、団員達は整備されたグラウンドに向かいました。
- 相手チームは予選を勝ち抜きました。
- 草間吉夫高萩市長始球式の後、午後1時に第1試合が始まりました。
- 飯能市の友好都市である茨

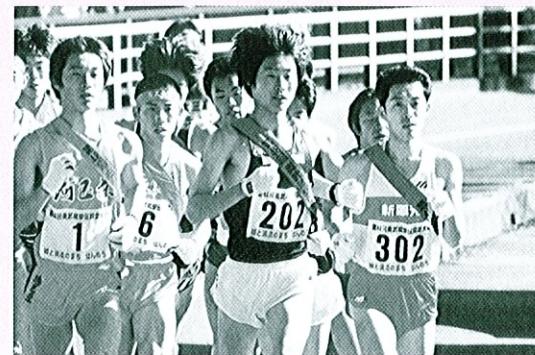
- 3月 広報「伸びる芽」発行
- 3月 奥武藏駅伝スポーツ認定指導員研修会
- 3月 少年団交流大会
- 3月 イラスト展開催

## 飯能陸上競技協会

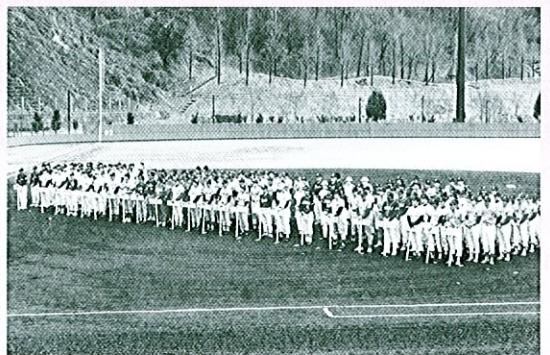
競  
技  
團  
體  
紹  
介

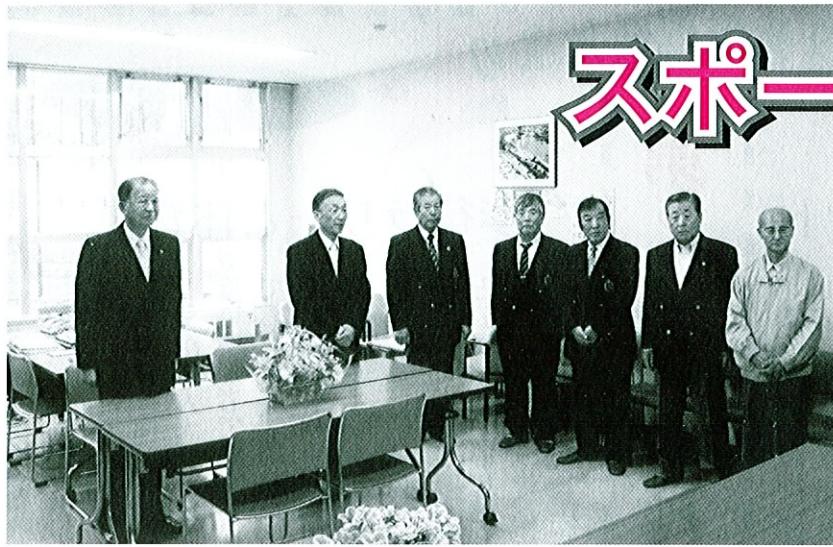
## 飯能市野球連盟

飯能の野球の歴史は大変古く大正の始めに飯能実業野球団として活躍し熊谷とともに埼玉県の野球の発祥の地と言われています。当連盟は体協の中でも最古参の連盟であり、長い歴史の中では彗星会、平岡工業、椿本チェイン、新電元工業等の活躍は目覚ましく、その名を県下に轟かせ、今なお新電元チームは県のシードチームとして活躍中です。現在の状況は飯能の審判員がいないと県の大会が成り立たないと言われるほど中心的役割を担っています。悩みは、企業チームの減少で大会運営が不安定で、打開に向け役員一同努力しているところです。



シリーズ第1回





NPO法人飯能市体育協会事務所(市民体育館2階)開きが行われる

**スポーツで 楽しく 若く 元気いいっぱい**

NPO法人飯能市体育協会

**誕生とこれから**

今年2月19日に県知事より特定非営利活動法人(通称NPO法人)の認証を取得し、3月2日に登記申請し設立した。設立経過、今後の取組みについて報告します。



静岡県のNPO法人清水町体育協会を訪問、研修会の様子

### 設立の趣意

- 市民スポーツの健全な普及発達競技力の向上活動に加え、全ての世代を対象に健康体力づくり活動の展開等により、健康なまちづくりに寄与する。
- 公共体育施設への指定管理者制度の導入を視野に入れた体制づくりが必要である。
- 今後の本協会の安定的な運営のために自主的な財政基盤の強化が必要である。
- これらを実現するためには法人化による体制の強化が必要である。

- H17.7月 指定管理者制度について、部会を設け勉強を開始する  
9月 各種法人について調査研究、NPO法人を視野に入れる  
10月 NPO法人の認証を取得する方向を打ち出す
- H17.11月～H18.3月 先進他市町を視察訪問し、法人取得及び運営に関し研修・情報収集をする
- H18.3月 市幹部に体育協会のNPO法人取得計画について説明する  
5月 常任理事会において体育協会をNPO法人化する事を確認する  
6月 評議員会(総会)にてNPO法人格取得について説明すると共にNPO法人化準備委員会を設置する

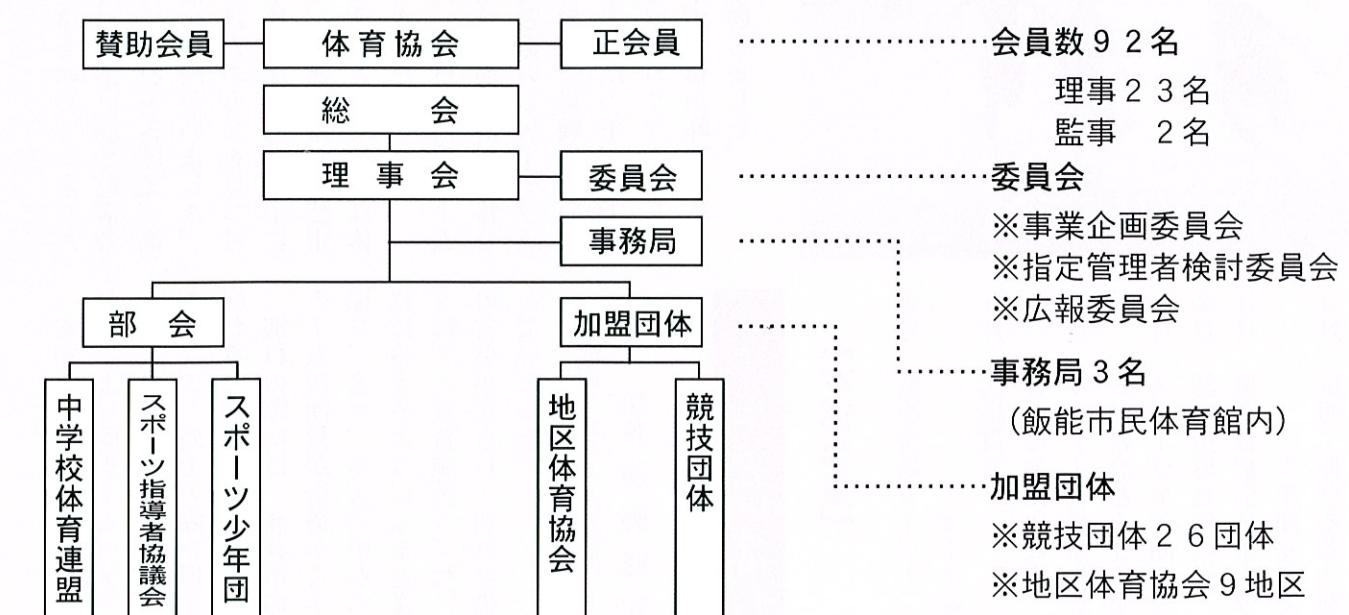
- H18.7月～10月 準備委員会にて定款その他の必要書類の作成に入るとともに隨時競技団体・地区体育協会などに対し説明会を開催する
- 11月28日 「特定非営利活動法人飯能市体育協会」設立総会開催
- 12月12日 申請書及び添付書類を埼玉県へ提出する  
(埼玉県西部地域創造センター 川越市)
- H19.2月19日 埼玉県知事よりNPO法人の認証を得る
- 3月2日 登記申請する
- 3月8日 登記完了する

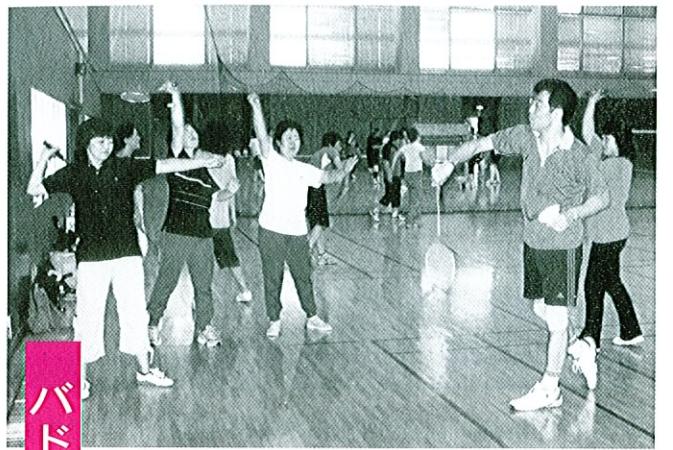
※NPO法人飯能市体育協会の設立は平成19年3月2日となる

### 基本方針及び主な事業

基本方針	主な事業	
	平成19年度	平成20年度
飯能市の総合的なスポーツ振興のリーダーとしてスポーツの普及発達、競技力の向上に努める	市民体育祭の実施 各種スポーツ教室の開催 奥武藏中学校駅伝競走大会開催 奥むさし駅伝競走大会への協力	→ 繙続事業 → 同上 → 同上 → 同上
市民一人一人がスポーツ活動を継続的に実践できる場を提供し、健康体力づくりに貢献する	飯能新緑ツーダーマーチへの協力 健康体力つくり運動の立案	→ 繙続事業 健康体力つくり事業の立ち上げ 広報活動の充実(ホームページ)
公共体育施設の管理運営を視野に入れ、スポーツの出来る環境を整備し、地域の一体感や活力が生まれるような事業を行う	指定管理者制度に対応した体制の準備 (指定管理者検討委員会)	指定管理者として管理体制の確立と応募準備
物品販売(スポーツ飲料等)や広告収入、大会参加費等で財源を確保し、事業を強化する	自動販売機の設置契約並びに設置開始(目標10台)	自動販売機の設置 広告収入企画の立案、実施

### 組織と会員状況





バドミントン教室

5月16日～7月25日  
毎週水曜日午前10時～12時  
全10回 参加人数40名  
飯能市民体育館

## 教室の参加者から話を伺いました。

バドミントンはそれなりのレベルで楽しめ、また幅広い年齢層に人気のスポーツで、前々から興味を持っていて今回の教室に参加しました。

今回のこの教室は、定員を大幅に上回る参加者となったそうです。ミズノスポーツの講師の方、市バドミントン連盟の指導者の方々が基本から丁寧かつ厳しく指導して下さり、バドミントンの基本をしっかりと教えていただき、とても充実した内容でした。同じ汗を流した仲間たちと、徐々に上達していく喜びを分かち合うこともでき、楽しい教室を過ごすことができました。とうれしそうに話してくれました。



体協では各種スポーツ教室を開催しています

## スポーツ教室探訪

体育協会では飯能市と委託契約を結び、各種スポーツ教室を開催しています。  
平成19年度は15教室を計画(案内を「広報はんのう」に随時掲載)開催しています。

## 教室の指導者から話を伺いました。

今回の教室参加者は年齢が15歳から67歳までの幅広い年齢層で、指導者も10名ほどの態勢で望みマンツーマン方式に近い状況で指導にあたったそうです。

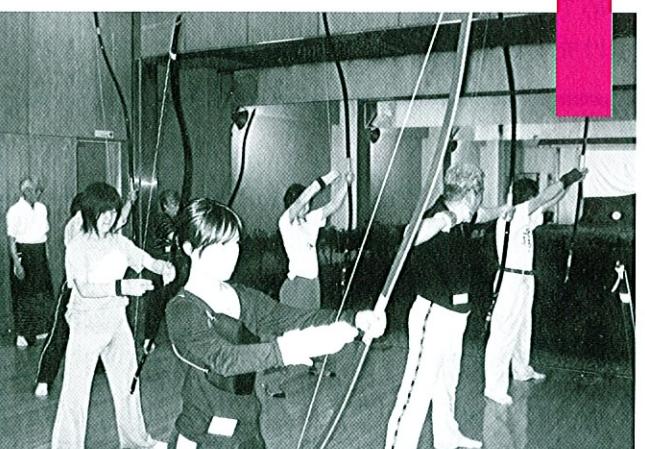
『弓道は静のスポーツです、静かに立ったり座ったり、歩行したり。その中に礼節・作法ありの老若男女誰でも楽しめるスポーツです』

回数を重ねるごとに上達、教室の後半には28m先の的に命中するほどの腕前になる人もいます。

教室最終日には、指導者、受講者全員が車座になり、一人一人が感想を述べあったそうです。

「今後も続けたい、集中力が身についた、若い人達と一緒にでき楽しかった」など。また多数の方が連盟に入会し練習を続けたいとのことで、連盟としても期待しているそうです。

6月12日～7月13日  
毎週火・金曜日午後7時～9時  
全10回 参加人数14名  
飯能市民体育館弓道場



弓道教室

毎年、10月初旬に開催される「吾野地区体育祭」は、自治会数25自治会を、旧小学校学区の4地区に分けての「地区対抗戦」を中心としたこの地区最大のお祭りです。

## 山間地域最大のイベント

参加者は下は乳幼児、上は80歳超のお年寄りまで参加者数は600人を超え、毎年、競技を通じて秋の一日を楽しんで貰う行事となっています。

又、この大会では前年度の小・中・高校生の大きなスポーツ公式試合(県・関東大会・インターハイ・国体等)に出場した地元出身選手を開会式の中で紹介、表彰することで地域の方々に各選手の活躍を知つていただき、より一層の応援をお願いする場も設けており、この地域から優秀なスポーツ選手が多数輩出することを応援しています。



## 地区体育協会だより

## 吾野地区

## 精明地区

## 第2回

## こんなことやつこまゝす!

## 歩行ラリーと体育祭

毎年、11月23日勤労感謝の日に行われる歩行ラリーも今年で30回目、地域の子どもから大人まで毎回百名近くの参加者で盛大に開催しております。約9コースを設定し、家族や友達同士などがグループを組み、コースを散策、晩秋の精明を満喫しております。地区体協と公民館が中心に健全育成会とまちづくり推進委員会の協力を得て大会運営に当

たり、参加者の安全確保等に努めています。参加者からは、毎年の開催を期待しているとの声もいただいております。この他で最も大きな事業は地区体育祭です。精明小学校、双柳小学校の校庭を交互に利用し、各自治会参加チームで大会を盛り上げています。新旧の住民が互いに仲良く交流しながら地区対抗競技に火花を散らしています。



## 吾野スリーベルズスポーツ少年団

## 第27回関東スポーツ少年団ホッケー交流大会で見事に優勝

5月3日に栃木県日光市で開催された、第27回関東スポーツ少年団ホッケー交流大会でスリーベルズスポーツ少年団が見事優勝を果しました。関東各地の強豪12チームがしのぎを削る本大会で、予選を1位で通過、決勝トーナメント1回戦では同じ飯能市から参加の埼玉ホッケー協会を収めた。結果で準決勝も6対1と快勝、そして決勝戦は地元今市のチームと対戦、大接戦を制し1対0で見事勝利を手にしました。

スリーベルズスポーツ少年団にとっては連続出場7年にして悲願の初優勝となる見事な活躍でした。

# 駿大力ヌー部の 矢澤君、海渕さん日本一に！

全日本選抜カヌースラローム競技大会で  
アベック優勝飾る



矢澤一輝君



海渕萌さん

駿河台大学カヌー部の矢澤一輝君(文化情報学部1年)と海渕萌さん(現代文化学部3年)は4月29日(日)群馬県みなかみ町利根川のカヌーコースで開催された、第30回NHK杯全日本選抜カヌースラローム競技大会で男女それぞれ優勝を果した。

男子では他に二上悠君が8位に、吉田拓君が9位に入り駿大力ヌー部の名を大いに高めた。

本大会の参加資格は、平成18年度日本選手権準決勝進出者であることとされ、非常にレベルの高い大会である。その中で矢澤選手は35名の頂点に、海渕選手は22名の頂点に立ったもので文字通り全日本のトップとなった。両選手の所属するカヌー部はカヌースラロームレーシング競技とカヌーポロチーム合わせて18名の部員を擁している。

コーチ陣もトップコーチ2名を含む強力な陣容で、指導も個人メニューを中心にトレーニングとメンタルアドバイスを実施し、平日は学内の特設ボンドでゲート練習、週末には御岳合宿所でコーストレーニングに励んでいる。

カヌー部(主将山口周平君、法学部3年)の部員からは「大学生活の4年間は短いが無限の可能性を秘めている、一日一日集中して打ち込めるものをみつけ充実した4年を過ごすのも悪くない…」とコメント

## 編集後記

NPO法人取得、事務局の独立と事務所の開設、第1回通常総会の開催とめぐらしい動きの中での広報紙第2号の発刊となりました。相変わらず締切り追込み型で右往左往、反省すれば改まらず、困ったものです。(A)



ントをくれた。残念ながら矢澤君と海渕さんは海外遠征中でコメントはいただけなかったが、矢澤君は小学4年の頃から、海渕さんは3歳からカヌーで遊び始めたとのことでカヌーに対する情熱は相当なものと推測できる。更なる成長を期待する。

## 駿大キャンパスにホッケー場完成間近

駿河台大学飯能キャンパス内にホッケー競技専用のグラウンドが完成間近にせっまっている。飯能市は「ホッケーのまち」としてホッケー競技の普及発展に力を入れていることは自他共に認めるところであり、今年は国体ホッケー関東ブロック予選大会、来年は高校総体(インターハイ)ホッケー競技大会が開催される。その飯能市に立地する駿河台大学にホッケー場が出来るとということは地元にとっても大変喜ばしいことであり、取材をさせていただいた。

ホッケー場は白亜の学生寮「フロンティアタワーズ」の南側に位置し、日本ホッケー協会公認の人工芝のグラウンドで、競技グラウンドの他に練習グラウンドを付設する本格的のもので、敷地の広さは17,000m<sup>2</sup>阿須ホッケー場の約30%広い敷地である。設備としては夜間照明、人工芝散水装置、約400席のスタンドを備えている。完成は9月中旬予定である。駿河台大学は男女ホッケー部とも関東学生リーグ1部で活躍中、特に女子ホッケー部は同リーグで11季連続準優勝、また全日本学生選手権でベスト8入り4回など大学ホッケー界でもトップクラスである。

## 着々と工事が進む駿大ホッケー場

